

## 原中での“学び”のあり方



新年度が始まってから2ヶ月が過ぎ、それぞれの学年では修学旅行、稲武、校外学習に向けての準備がすすめられています。この取り組みを通して、見聞を広げ、学級や学年の和が深まることを願っています。

このたび、学校目標や保護者アンケートの結果をふまえ、原中での“学び”のあり方を以下のようにまとめました。今後も職員一同、力を合わせて教育活動をすすめてまいりますので、一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 学校目標（校訓） **聡く(知育) 明るく(徳育) たくましく(体育) 未来に大きくはばたこう！**

学校努力点 自ら学び、ともに高め合う生徒の育成 ～ 基礎基本の習得とその活用を通して ～

#### 【基本理念】

「原中生」として  
身に付けさせたい  
4つの資質

- 「基礎基本を身に付け、それらを活用して問題を解決することができる」
- 「互いのよさを認め合いながら力を合わせていくことができる」
- 「望ましい生活習慣を身に付け、生涯にわたって心身の健康増進につとめることができる」
- 「郷土や母校が大好きで、自分らしさを生かしながら未来に向かってよりよく生きることができる」

#### ○ 「原中生」としての資質を育む“学び”の提供

落ち着いた学習環境づくりや学校努力点として取り組む学習指導法の工夫、体験学習の充実や自分らしさの追究など、「原中生」として身に付けさせたい資質を育む“学び”を提供していきます。

#### ○ 「人のつながり」を基盤とした教育環境整備

特別活動において仲間どうしのつながりを深めるとともに、教育相談を充実させるなど「人のつながり」を基盤とした教育環境を整備します。また、名古屋市が提唱する「家庭でしつけ、学校で学び、地域で育てる環の確立」という理念のもと、PTA活動を通して親学（おやがく）の充実をはかり、地域全体で子どもたちの成長を見守る土壌を築きます。

#### 聡く

- ① チャイム着席の励行など、授業規律の確立
- ② 朝学習や読書ウィークなど、朝の始業時からの学習体制づくり
- ③ TT（ティームティーチング）、少人数指導などきめ細やかな指導体制づくり
- ④ ドリル学習やワークシートなど、基礎基本の習得を図る指導法の工夫
- ⑤ 言語活動の充実など、基礎基本を活用した思考力・表現力育成の工夫



#### 明るく

- ① 体育大会やフェスティバルHARAなどの行事における主体的な活動場面
- ② 手作りで思い出に残る旅行的行事
- ③ 実践力と連帯感を深める生徒会・委員会・学級活動
- ④ 人とのかかわりや生き方を考える道徳や総合的な学習
- ⑤ 家庭の教育力向上をめざした親学（おやがく）の充実



#### たくましく

- ① 望ましい生活習慣の確立をめざした生徒指導
- ② 心身の健康増進について学ぶ、健康教育セミナーなどの講演会
- ③ 一人一人の思いを受け止め、問題の早期発見や心の安定につながる教育相談
- ④ 生涯にわたって親しむ文化的・運動的活動の土台となる部活動



- ① 少子高齢化社会に生きる力を育てる福祉体験学習
- ② 社会との架け橋となり職業観を広げる職場体験学習
- ③ 一人一人の可能性を広げ自分らしさの追究を促す課題研究
- ④ 読解力を身に付け家族のふれ合いを促進する新聞コラム学習

未来に大きくはばたこう

# 親学（おやがく） / ススメ

～ 家庭教育セミナー「ネット社会の危険から子どもを守るために」 ～

「ケータイ電話が欲しい。だって、みんな持っているし・・・」

「親学（おやがく）」について  
子どもにとって親はどうあるべきかを考え、子どもとともに親として成長する楽しさを学ぼうというもの。（市の事業手引きより）

まだまだ幼いと思っていた子どもから、突然こう切り出されたとき、保護者の皆さんは、どう答えますか。

携帯電話の必要性は理解する一方で、「トラブルが多いと聞くし、お金もかかる。まだ早いのではないだろうか」と心配もあることでしょう。実際、市内の中学校でもメールのトラブルから心に深く傷を負うケースが後を絶たないと聞きます。「みんな持っている」と言われ、とりあえず「今度のテストでがんばったらね」などとその場しのぎで答えてしまうと、後々取り返しのつかないことになりかねません。

P T A主催の家庭教育セミナーやO Y A O Y A倶楽部では、毎年、保護者の関心に応じて講演会を実施しています。今回のテーマは「ネット社会の危険から子どもを守るために」とし、県警サイバー犯罪対策室から講師を招きます。実際の事例をもとにネット社会に潜んでいる危険について知り、その対処の仕方などを学びます。



6月30日（木）開催予定の家庭教育セミナーについて、P T A地域委員会からの案内を配付させていただきました。家庭の教育力向上につながるお手伝いをさせていただきますので、ともに学んでいきましょう。携帯電話に関する原中生の実態について載せていただきましたので、何かの参考になればと思います。

## <参考> 原中生 の 実像（携帯電話について）

※ 各学年、2クラスずつ抽出してアンケートに答えてもらいました。（全191人）



Q 1. あなたは自分の携帯電話を持っていますか。

全 体	はい (45%)	いいえ (55%)
1 年生	はい (35%)	いいえ (65%)
2 年生	はい (50%)	いいえ (50%)
3 年生	はい (51%)	いいえ (49%)

※ どの学年においても、女子の方が「持っている」と答えた割合がやや高い傾向にありました。

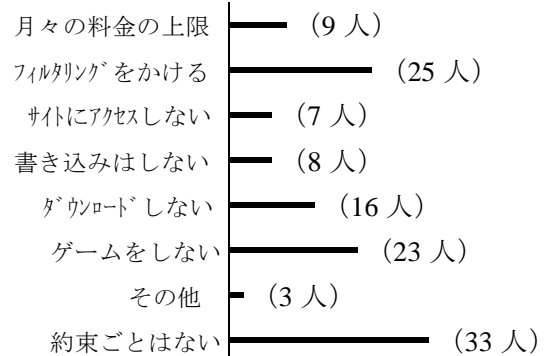
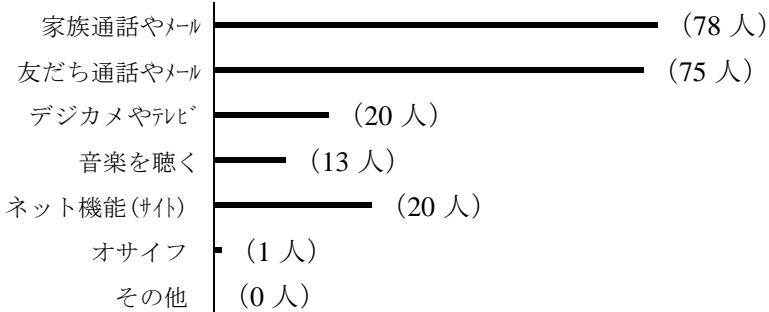
### <「はい」と答えた人に尋ねます>

Q 2. 携帯電話を買ってもらったのは、いつですか。

全 体	小4以前 (26%)	小5 (17%)	小6 (15%)	中1 (26%)	中2 (12%)	中3 (4%)
-----	------------	----------	----------	----------	----------	---------

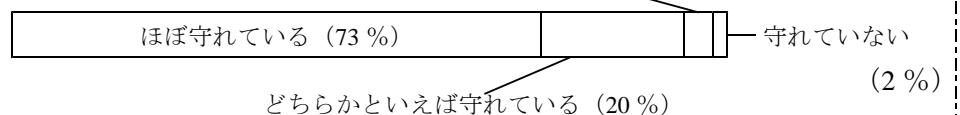
※ 購入理由としては「塾や習い事の連絡用として」が圧倒的に多く、ついで「中学入学や誕生日などのプレゼントとして」という理由でした。共働きや家族の看護などの家庭事情のため購入したケースも何件かありました。

Q 3. 携帯電話を主にどんなことに使っていますか（複数回答） Q 4. 携帯電話を持つうえで約束ごとはありますか（複数回答）



どちらかといえば守れていない (5%)

Q 5. Q 4の約束ごとは守れていますか。



※ 「携帯電話は持っている」という感想が多かった反面、「料金がかさんでしまう」「友だちからのメールやその返信に気を使って疲れる」「怪しいメールが来て対応がわからない」などの不安の声も聞かれました。